

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人

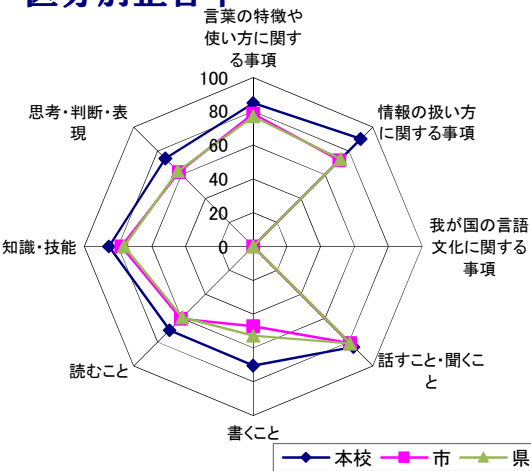
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	84.9	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	90.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	84.0	81.0	81.1
	書くこと	70.5	47.2	52.8
	読むこと	70.0	60.5	59.3
観点	知識・技能	85.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	73.6	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

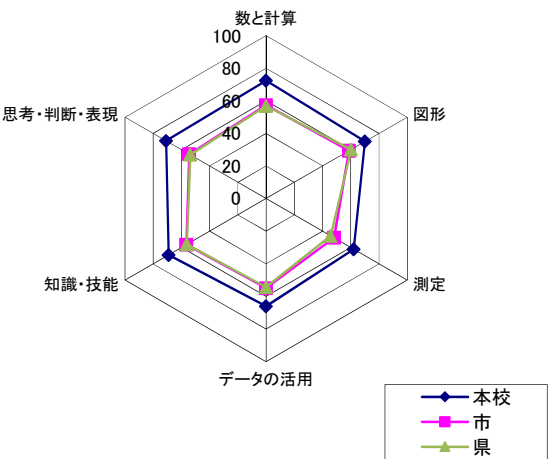
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字を書く問題、ローマ字で表記されたものを読む問題、主語と述語の関係を捉える問題では、正答率が県や市の平均を全て上回っている。既習事項がおおよそ身に付いていると考えられる。 ●漢字を読む問題では、県や市の平均を下回ったものがあつた。漢字の読みの理解がまだ十分ではないと考えられる。	・音読や教科横断的な活動の中で漢字にふれさせる機会を意図的に増やしていく。 ・スキルの活用、家庭学習などを通して、漢字の学習を継続していく。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、県や市の平均よりかなり高い。 ○国語辞典の使い方の問題で、県や市の平均を上回っており、国語辞典の使い方をほぼ理解していると考えられる。	・語句調べなどを通して、国語辞典を活用する機会を増やし、更に語彙力を高めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○理由を挙げながら、自分の考えを相手に伝える問題では、県や市の平均よりも高く、考えを伝える力は身に付いていると言える。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県や市の平均よりも低く、聞き取る力が不十分であると考えられる。	・対話的な活動を授業の中で引き続き積極的に取り入れていく。 ・国語の時間を中心に、話の内容を正確に聞き取る経験を多く積めるような機会を増やす。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均よりもかなり高い。 ○自分の考えをもち、理由を明確にして文章を書く問題では、正答率が県や市の平均より20ポイント以上上回り、自分の考えを理由付けて書く力が身に付いていると言える。	・自ら書きたいと思うような学習活動を各教科の中で取り入れる。 ・段落構成を意識して文章を書く経験を多く積むことができるよう、国語の授業を中心に書く機会を意図的に設ける。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○物語文の登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題の正答率は県や市の平均より10ポイント以上上回り、読解力が身に付いていると言える。 ●文章を要約する問題では、県や市の平均を上回ってはいるが、正答率は38%であつた。	・文章中のキーワードや、大切な文を探しながら読む活動を取り入れる。 ・国語の授業の中で、要約する活動に重点を置き、筆者の考えや伝えたいことを捉え、それを簡潔にまとめる力を育てていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.4	57.4	56.9
	図形	70.0	58.7	60.1
	測定	62.0	48.1	45.7
	データの活用	66.0	54.9	54.3
観点	知識・技能	69.1	56.6	56.2
	思考・判断・表現	70.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

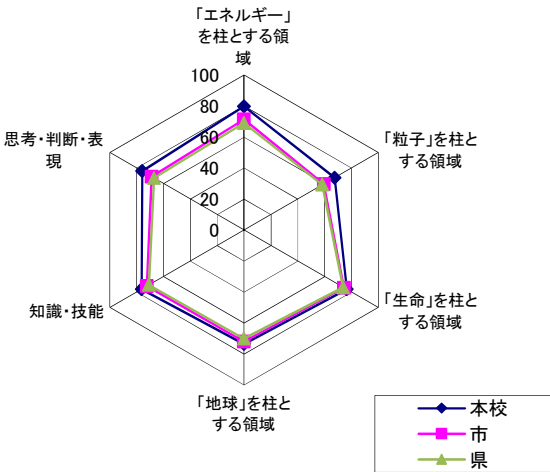
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○小数の仕組みや表し方、余りの処理の仕方や、基本的な四則計算の問題では、県全体の平均正答率より大幅に正答率が高い。 ●分数の表し方や計算の仕方のきまりについて説明することに、課題が見られる。	・友達の考えを共有する等、様々な考えに触れる機会を設ける。 ・計算の仕方については、計算の過程を説明し合う機会を増やしていく。 ・今後もコース別学習や少人数指導を充実させていく。
図形	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○円の性質を利用して、正三角形を作図する問題の正答率が高い。 ●二等辺三角形の性質や、球の切り口や半径を求める問題では、課題が見られる。	・朝のステップアップやコース別学習で、個別の支援を行い、作図の仕方の定着を図る。 ・ICTや具体物を活用し、児童が視覚的にも理解できるようにしていく。
測定	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求めたり、時刻を求めたりする問題では、正答率が県や市を上回っている。 ●重さについての基礎基本の定着が、不十分である。	・操作活動を通して、児童が重さや長さを実感しながら理解できるようにしていく。 ・他教科とも関連付けながら、折に触れて、重さや長さなど目盛りを読む機会を増やす。 ・単位の概念については、日常生活や他教科と関連させ、繰り返し取り上げるにより、身に付けられるようにする。
データの活用	校内平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○二次元表の特徴から読み取れることや、表の数値の意味についての理解はおおむねできている。 ●複数の棒グラフを組み合わせたときの目的や工夫を問う問題では、その棒グラフの特徴の理解が不十分なところが見られる。	・学習や生活と結び付けて、データを活用したり分類・整理したりする活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	79.8	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	67.5	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	76.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	73.5	72.0	70.1
観点	知識・技能	76.3	72.5	70.9
	思考・判断・表現	75.9	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○磁石につくものの条件について正しく考察できている人を選ぶ問題の校内平均正答率が、県を19.7ポイント、市を24.4ポイントと大きく上回っている。 ●輪ゴムの数と車が動く距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ問題の平均正答率が52%と低く、課題が見られる。	・今後も実験や体験的な活動をさらに充実させ、学習内容の定着を図る。 ・実験を基にした考察活動が定着していると評価できる一方で、文章だけでなくグラフで表現するなど、多様な表現方法を取り入れるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○実験の様子を示した図を基に、実験結果が異なった理由を選ぶ問題の平均正答率が92%と高いことから、はかりを正しく使う技能が身に付いていると言える。 ●粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶことに課題が見られる。	・今後も実験の機会を十分に確保し、道具を扱う技能を高めていく。 ・予想、考察の時間をさらに充実させることで、考察力や説明力を高められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○昆虫や植物の成長のように、児童が身近に観察・体験できる内容への理解が高い。 ●複数の情報を比較・整理して考察する問題や記述式の問題に課題が見られる。	・今後も、観察の時間を確保したり、デジタル教材を上手に活用したりすることで、昆虫の育ち方や植物の成長順序の理解、昆虫のからだのつくりなどの知識の定着を図る。 ・比較する視点の明確化と記述表現活動を拡充することで、考えを説明する力を高めることができるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○日なたと日陰、気温、方位磁針の使い方など、観察・測定に関する内容を正しく理解している。 ●日なたと日陰について見出した問題に正対した記録を選ぶ問題に課題が見られる。	・今後も測定・観察の活動を十分に確保し、児童の実感を伴った理解を促すことで、知識・技能の定着を図る。 ・観察→記録→考察の一貫した流れを意識した授業改善を行うことで、記録を根拠に考察する力を高めることができるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する質問の肯定的回答率は、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」が79.3%、「家で、学校の授業の予習をしている」が71.7%、「家で、学校の授業の復習をしている」が77.4%、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」が66.1%で、それぞれの回答で市の平均を上回っている。家庭学習の指導を重点的に行う期間を設けたり、カレンダーや振り返りカードの活用を図ったりしてきた成果の表れであると考えられる。今後も家庭との連携を図りながら、内容の工夫にも目を向けられるようなアドバイスをして、更なる家庭学習の充実を目指していきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と肯定的に回答した児童の割合は88.7%、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童の割合は88.7%で、それぞれ8割を超えており、市の平均と比べて10ポイント以上高い。さらに、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と肯定的に回答した児童の割合は98.1%で、とても高い割合であった。対話的な活動を授業に積極的に取り入れてきた成果の表れであると考えられる。今後も引き続き、対話的な活動の機会を多く設け、友達の意見と自分の意見を比較しながら考えを深めていけるようにしたい。さらに、相手意識や目的意識をもって意見を述べ合う活動を通して、話し合いの充実に努めていく。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と肯定的に回答した児童の割合は79.3%で市の平均を上回った。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と肯定的に回答した児童の割合は86.8%で、市の平均を20ポイント以上大きく上回った。授業や家庭学習を通して、調べ学習を推進してきた成果の表れであると考えられる。引き続き、調べ学習の機会を設け、児童の興味関心を高め、主体的に学ぼうとする態度の育成に努めていく。

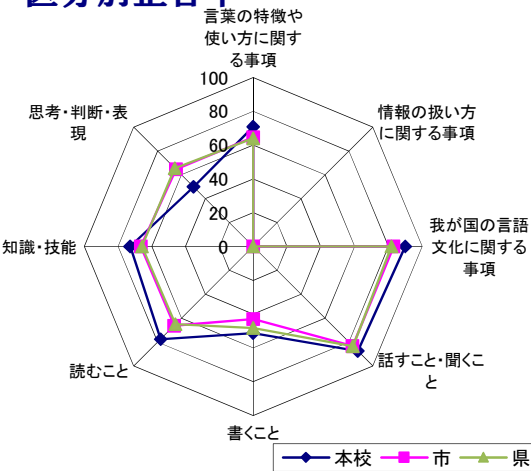
●「地いきや社会で起っている問題やできごとに関心がある」と肯定的に回答した児童の割合は77.4%で、市の平均を上回ったが、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」と肯定的に回答した児童の割合は75.5%で、市の平均を下回った。また、「新聞を読んでいる」の質問について、「ほとんど、またはまったく読まない」と回答している児童の割合は9割を超えていた。出来事への関心はあるが、自ら情報を得る意欲や機会が少ないと考えられる。新聞を活用した授業を取り入れたり、現在の社会情勢に関心を向ける機会を増やしたりすることで、多くの情報に触れ、知識を増やす楽しさを感じ、世の中への関心を高められるようにしていきたい。

●「けい帯電話やスマートフォンの所持率は市の平均より低い」が、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく)」の質問に2時間以上と答えた児童の割合は、市の平均を上回った。今後も保護者との連携を図りながら家庭でのルールを確認したり、学校でけい帯電話やスマートフォンの安全な使い方について、啓発指導を充実させたりしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.8	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	90.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	87.5	83.3	83.4
	書くこと	51.3	42.8	48.2
	読むこと	77.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	72.8	66.5	65.9
	思考・判断・表現	50.0	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

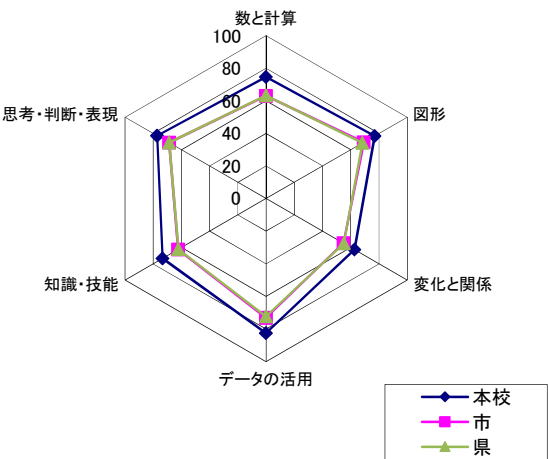
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字を読む問題では、全ての問題で正答率が高く、基礎基本の定着がおおむね図られていると考えられる。 ●連用修飾語の問題では、修飾語の意味や使い方の理解が不十分である。また、熟語の組み合わせの種類や意味を捉えられていない。	・修飾語や熟語、漢字などの言語に関する内容を漢字スキルやプリントを活用して定着を図るようにする。 ・朝の学習、家庭学習を通して、文の構成の学習を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○よく使われていることわざの意味や使い方を正しく理解していると言える。	・朝の学習、家庭学習などを通して、ことわざ、慣用句などの学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○話し手の工夫や話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県や市の平均を上回っている。 ●話し合いの目的を確認し、自分の考えを理由を挙げながらまとめ記述する問題では、県や市の平均をやや下回っている。	・対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ・国語の学習に限らず、理由を明らかにして自分の考えをまとめる活動を継続していく。 ・話し方名人、聞き方名人を意識させて授業に取り組めるようにしていく。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均よりかなり高い。 ○それぞれの段落に書く内容を考えたり、指定された長さで文章を書いたりすることができていた。	・作文や感想文、学習の振り返りを書く活動など、自分の考えを文章化する機会を多く取り入れる。 ・読書や、分からない言葉を進んで調べることを通して、語彙力を高める。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○文章を読んで登場人物の気持ちについて想像することができるかどうかをみる問題では、県や市の平均より大幅に上回っている。	・物語文において登場人物の気持ちの変化を教材文の叙述をもとに考えていけるようにしていく。 ・説明文では、段落の要点をまとめたり、段落相互の関係を的確に捉えたりできるように読み取りを進める。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.6	63.0	63.3
	図形	76.9	69.2	68.3
	変化と関係	62.5	54.8	55.0
	データの活用	82.5	73.1	72.3
観点	知識・技能	73.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	77.2	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

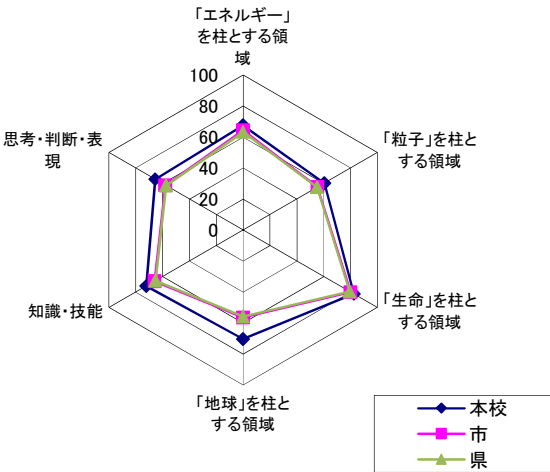
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○小数や分数の計算問題では、全体的な正答率が高い。 ●小数のしくみを理解し、もとにする小数のいくつかで大きさを比べる問題に課題が見られる。	・朝のステップアップやコース別学習で、個別の支援を継続的に行い、基礎的な計算力の向上を図る。引き続き、コース別学習や少人数指導を充実させていく。 ・デジタルドリルを繰り返し活用し、自主的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。
図形	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○立体の性質や三角定規を使って角の大きさを求める問題では、正答率が高い。 ●ものの位置の表し方を理解し、もとにする位置を考える問題に課題が見られる。	・具体物を使用しながら、説明し合う学習を積極的に取り入れ、考察したことを表現する機会を増やし、理解が深まるようにする。 ・立体の具体物を提示したり、三角定規を実際に使用したりしながら演習する授業を継続して行っていく。
変化と関係	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○表を見て数量の関係を読み取ることがおおむね理解できている。 ●割合が基準量の何倍かで求められる問題に課題が見られる。	・数量の関係を捉えやすくするため、正しくテープ図や数直線などの図に表す活動を繰り返し行う。 ・発展的な問題にも取り組ませ、対話的な学習を意識して理解が深まるようにする。
データの活用	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○複合グラフの読み取りや、二次元の表の意味については、十分理解できている。	・算数の授業だけでなく、他教科とも関連させて二次元表や折れ線グラフ・棒グラフなどを読み取り、考察したことを表現する活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	60.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.5	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	70.3	56.4	55.8
観点	知識・技能	72.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	65.4	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均正答率よりも高い。 ○検流計のしくみや、乾電池のつなぎ方を変えたときの電流の向きや大きさについては、理解している。 ●乾電池のつなぎ方と回路に流れる電流の大きさについて、課題が見られる。	・今後も理科的用語をおさえながら学習を進めていく。 ・電気の働きについて学習する際は、個々が実験に取り組めるように器具を揃えたり、活動の時間を確保したり、実験計画を工夫する。乾電池のつなぎ方と回路に流れる電流の大きさが理解できるように、繰り返し指導する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均正答率よりも高い。 ○とじこめた空気を圧した時の押し返す力や金属のあたため方についての理解ができています。 ●空気でっぽうのしくみについて、空気を圧したときの性質と関連付けて考えることに課題が見られる。	・楽しみながら学ぶ活動を多く取り入れ、体験的な学習を継続する。 ・実験に対する予想・仮説を立てる活動を大切に、視覚的に捉えられるような実験計画を立て、得られた結果の根拠と関連付けて考えさせるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均正答率よりも高い。 ○季節の動植物の様子についてよく理解している。 ●骨のはたらきについての理解が不十分である。	・今後も植物を育て、継続して観察する学習に力を入れていく。 ・具体物や適切な教材を活用して、理解を深めるようにする。 ・学習のまとめでは、理科的用語を使って児童が自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均正答率よりも高い。 ○粒の大きさと水のしみこみやすさの関係について理解できている。 ●空気中の水蒸気が冷やされて結露することを窓についた水滴と関連付けて考えることに課題が見られる。	・日々の現象について、実験結果と結び付くようにデジタル教材を活用して確認する。 ・以前の実験との関係性を抑えてから、実験を行い、それぞれの実験結果を関連付けてまとめる活動を取り入れる。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」と肯定的に回答した児童の割合は88.1%で、市の平均と比べて10ポイント以上高い。また「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校の授業の復習をしている。」と肯定的に回答した児童の割合はどちらも市の平均を上回っている。望ましい学習態度が定着していることが伺えるため、今後も学校と家庭で連携し、児童の学習態度の向上を図る。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」と肯定的に回答した児童の割合は95.3%と非常に高く、市の平均と比べて10ポイント以上上回った。児童の興味・関心を高められるような導入の工夫や、生活に結び付けた授業展開をしてきた成果が表れていると考えられる。今後も、楽しく分かりやすい授業の充実に努めていく。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と肯定的に回答した児童の割合は95.3%で、市の平均と比べて約4ポイント高い。教育相談やQ-U検査の結果などから児童一人一人の悩みを把握し、適切に支援してきた成果が表れていると考えられる。今後も一人一人を大切に、学校生活がより充実したものになるように支援していきたい。

●「学校のきまりを守っている。」と肯定的に回答した児童の割合は88.1%で、市の平均と比べて約5ポイント低く、十分とはいえない状況である。各クラスで学校のきまりやルールを再確認するとともに、特別な教科道德の授業などを通して、児童がしっかりときまりを意識し守っていけるように継続して指導していき、きまりの大切さやきまりを守る意義についての理解を高めていきたい。

●「しよ来のゆめや目標をもっている。」と肯定的に回答した児童の割合は83.4%で、市の平均と比べて約6ポイント低い。児童が自分の可能性を見つけ、未来に夢と希望をもって生活できるよう、キャリアパスポートを活用してなりたい自分について考える時間を設けたり、学級活動等で児童の個性を生かして活躍できる場を設けたりしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	互いに認め高め合い、進んで学ぶ児童の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問への肯定回答の割合が、4年生・5年生ともに県の平均を10ポイント以上上回った。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」の質問に対する肯定回答の割合は、4年生が98.1%、5年生が95.2%と非常に高い結果となった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「漢字を正しく読む。」「漢字を正しく書く。」に関して、正答率が低い問題もあった。	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導	漢字ドリルやAIドリルを活用して反復練習を行ったり、「家庭学習の手引き」や「自主学習メニュー」など家庭学習の充実を図る指導を工夫したりすることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。